

生徒指導だより NO.2

令和2年5月20日

5月の生活目標～礼儀作法を身につけよう～

例年では、学校生活が1ヵ月を過ぎ、新1年生も徐々に学校生活に慣れてくる頃、しかし、今年は学校が再スタートの準備をする時期になってしまいました。これから、徐々に学校生活が再開されていきます。5月の生活目標は「礼儀作法を身につけよう」です。「西方中生はとても礼儀正しいですね」と褒められることが多いのですが、なぜ礼儀作法を身につけることが大切なのでしょう。考えたことはありますか。よい機会なので、以前西方中学校で行っていたマナー講習会の内容を紹介します。礼儀作法を考えたいと思います。

■企業側は圧倒的に「コミュニケーション能力」を求める —企業が学生に求める能力—

| 順位 | 能力 | 割合 |
|----|-------------|-----|
| 1 | コミュニケーション能力 | 83% |
| 2 | チームで働く力 | 49% |
| 3 | 前に踏み出す力 | 34% |
| 4 | 目標達成指向 | 32% |
| 5 | 適応力 | 31% |

(出所)HR総研「2017年新卒採用徹底解剖CD-ROM」

【マナー（礼儀作法）とはなにか？】

上の表をふまえると、社会に出るということは、「たくさんの人とコミュニケーションをとりながら生きる」ということです。コミュニケーション力とは、面白い話ができるということではなく、「どんな年齢の人ともしっかり付き合える力」と言うことができるかもしれません。コミュニケーションをとる上で、大切になるのは相手への気遣いです。相手に不快な思いをさせていたのでは、十分なコミュニケーションをとることは叶わないでしょう。つまり、

マナーとは「相手に不快な思いをさせない気遣い、恥をかかせない行為」なのです。

このことを覚えておいてください。マナー（礼儀作法）を身につけることで、社会に必要なコミュニケーション能力を育てているということなのです。そのために、西方中では、特にあいさつでは「先語後礼」、身だしなみでは、「脚下照顧」という言葉がよく用いられています。

「先語後礼」（せんごこうれい）…あいさつを先にし、その後で礼をすること。

「脚下照顧」（きゃっかしょうこ）…足下や、自分の道具をそろえること。

家の中では、しっかりあいさつをしたり、自分の身だしなみを整えることはあまり機会がないかもしれません。久しぶりの学校生活だからこそ、まずは身近なことを見直し、礼儀作法を充実させていってほしいと思います。

まずは、左の表を見てください。これは、企業（社会）が今、どんな若者を採用するかということを示した表です。これを見ると、間違いなく「コミュニケーション能力」をもった人を企業（社会）は求めていることが分かります。これを覚えておいてください。

「脚下照顧」については先月号で少し紹介をしました。今回は「先語後礼」。特にあいさつについて紹介します。

【あいさつの種類について】



会釈：相手とすれ違う時や、簡単なあいさつの時に行うもの。
敬礼：一般的なあいさつ。学校生活や社会生活の基本となる礼の仕方。
最敬礼：深い感謝や謝罪、見送りなどに使用する最も丁寧な礼。

学校生活の基本は、敬礼です。立ち止まって、笑顔でできるとさらに良いです。

【あいさつの仕方について】

あいさつは基本「先語後礼」で行います。あいさつの言葉を述べるときには、相手と目を合わせて行うこと（アイコンタクト）ができると印象が良くなります。ビジネスマナーの世界では、立ち止まってあいさつすることを「制止礼」（せいしれい）と呼ぶそうです。制止礼と合わせて「先語後礼」が行えるとさらに印象がよくなります。



【マナー違反なあいさつについて】

逆に右の図のようなあいさつはマナー違反になります。自分のあいさつの仕方はどうでしょうか？こういうあいさつでは、された側も気持ちがよくないと思います。

マナーとは、自分をよく見せるための行為ではなく、自分と関わる相手を尊重し、大切にするための行為です。ぜひ、ただしいあいさつができるよう自分に習慣をつけていきましょう。



コロナウイルスの影響で、例年通りにスタートができなかったことは残念ですが、過去を変えることはできません。だからこそ、「未来」に目を向けていきましょう。西方中生が元気に学校に通うことは、先生方だけでなく、ご家族や、地域の方も楽しみにしているはずですよ。

「自分から相手の目を見て、元気よく進んであいさつできるように」

西方中生の手で、気持ちよく学校生活を再開させていきましょう。

参考：基本のビジネスマナー「正しいお辞儀の仕方」とは
参考URL：<https://woman.mynavi.jp/article/170828-7/2/>